

家庭数

平成29年11月30日
(2017年)

保護者の皆様へ

吹田市立吹田東小学校
校長 大森 政彦

平成29年度 全国学力・学習状況調査の分析について

全国の児童・生徒の課題改善に向けた教育及び教育施策の成果と課題を検証し、児童・生徒の学力及び学習状況の改善を図るために、『全国学力・学習状況調査』を本年4月に実施しました。9月上旬には自らの学習到達状況を正しく把握するため、個人票とともに、問題用紙と正答例をあわせてお返ししました。吹田市教育委員会においても、今回実施した調査についての成果および課題・問題点を分析し、吹田市教育委員会のホームページに掲載されております。

この調査は、小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科は国語と算数ですが、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

全国における調査を客観的に分析することにより、どのような指導形態がより効果的であるかをしっかりと見極め、学校全体あるいは小学校・中学校における連続した取り組みとなるよう、具体的な指導法の工夫改善を図ってまいります。

各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にして頂きますようお願い致します。

1 結果についての項目

(1) 国語

《概要》

国語A(『知識』に関する問題)

全ての問題で全国値を下回っている。漢字の読み書きについても、全て全国値を下回っており、無回答率も高い結果となった。

国語B(『活用』に関する問題)

全ての問題で全国値を下回っている。特に、物語の叙述を基に考えを書く問題については、無回答率が非常に高い結果となった。

《各領域における成果と課題》

○「話すこと・聞くことについて」

知識：全国値を下回っている。

活用：全ての問題で全国値を下回っている。特に、話し合いの意図や話の構成を考える問題については、正答率の低さが目立った。

○「書くことについて」

知識：全ての問題で全国値を下回っている。

活用：全ての問題で全国値を下回っている。特に目的や意図、文の構成を問う問題については正答率の低さが目立つ。

○「読むことについて」

知識：全ての問題で全国値を下回っている。

活用：全ての問題で全国値を下回っている。目的や意図、場面の構成を問う問題に対しては正答率が低く無回答率も高い。

○「言語活動について」

知識：全ての問題で全国値を下回っている。

◎国語科における成果と今後の指導改善点

・学習に自ら取り組む児童が増えてきました。特に、漢字を丁寧に書こうとしたり家庭学習で漢字に力を入れたりする児童も見られ、漢字検定に挑戦する児童も出てきました。

・基礎的な問題においても、全体の学力の低さが見受けられます。特に、漢字の読み書きの正答率の低さと無回答率の高さには、大きな課題があります。基礎的な漢字学習を継続的に取り組み、定着させる必要があります。また、話し合い活動や班活動をする時には、目的や意図を明確にして子どもたちが何の為にその取り組みを行っているのか、どういう目的でその方法を使っているのかを理解させていく必要があります。さらに、状況に応じて、学習したことを学校生活の中で活用できるように取り組みます。

・物語や説明文では、趣旨や主題を読み取る手順や方法を授業の中で学習できるよう工夫、改善を行っていきます。(理由を読み取る問題では、「～から」を探すことや接続詞の意味から叙述を探すこと、題名のキーワードから重要な場面を見抜くなど、読み取りを進めていく上での手順や技術を授業の中で教えていきます。そして、教わった技術を場面に応じて選択し、活用出来る力を身につけさせていきます。)

(2) 算数

《概要》

算数A(『知識』に関する問題)

全体的な正答率は、全国値を下回っていた。選択式と短答式における差はない。全体の無回答率は全国値と比較しても非常に高かった。無回答の児童が偏っている傾向にある。

算数B(『活用』に関する問題)

全国値を下回っている。その中でも量と測定の問題は大きく下回っていた。全体の無回答率は全国値よりも高かった。

《各領域における成果と課題》

○「数と計算」

知識：「数直線」の問題、最小公倍数を求める問題、分数のしくみについては、全国値を大きく下回っていた。選択式の問題であっても無回答率が高い。

活用：問題に示された二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述する問題は大きく下回っている。

○「量と測定」

知識：任意単位による測定の理解は大きく下回っている。底辺と面積の関係についての理解は上回っていた。

活用：平均を求める式の選択問題が全国値を下回っている。

○「図形」

知識：正答率が全国値を下回っていた。

活用：全国値を下回っていた。

○「数量関係」

知識：二次元表の問題はやや上回っていた。

活用：割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶ問題は大きく下回っていた。

◎算数科における成果と今後の指導改善点

授業では、新しく出された課題について、以前より自分の考えを書こうとする姿が見られてきました。

知識に関する問題では、四則演算については比較的できますが、小数や分数を含む問題は誤答が目立ちました。小数・分数・割合の概念の理解が必要です。授業では、図や半具体物などを取り入れ、視覚的に捉えやすいように工夫していきます。また、学校や家庭での反復練習や復習問題を定期的に取り組む必要があると考えています。昨年度より取り組んでいる「チャレンジタイム」でも小さな達成感の積み重ねにより、自尊感情を高めることや意欲の向上、既習学習の定着を目指しています。

活用に関する問題における課題より、授業において単に式と答えを問うだけでなく、なぜそう考えたのか過程を大切にし、考え方を式や図を用いてノートに書き表す力、また、それをわかりやすく説明する力を育むことができるよう授業の改善、研究を進めていく必要があります。また、長い問題に対する無回答率を減らすため、国語の読解力や根気よく問題に取り組む姿勢を家庭学習も含め日々の授業の中で意識づけていきます。

2 生活習慣や学習環境（児童アンケート）に関する調査結果

【学力調査、教科・学習について】

○国語の勉強の意識を問う項目

- ・「国語の勉強は好きですか。」の項目では全国値より割合が大きく下回り、「国語の勉強は大切だと思いますか」や「国語で学習したことは将来役に立つと思いますか」の項目でも全国値を下回っている。
- ・意見を発表するとき話の組み立てを工夫したり、考えを書くときに理由がわかるように気をつけて書いたり、しているかを問う項目では全国値を下回っている。
- ・「今回の国語の問題について文章で書く問題にはどのように答えたか」を問う項目では、解答しなかったり解答を途中であきらめたりしたものがあつたと答えた割合が全国値を上回り、全く解答しなかったと答えた割合は大きく上回っている。

○算数の勉強の意識を問う項目

- ・「算数の授業の内容はよくわかりますか」の項目は少し下回っているが、「算数の勉強は好きですか。」の項目では好きと答えた割合は少し上回り、「算数の勉強は大切ですか。」、「算数の授業で学習したことは将来役立つと思いますか。」の項目では、全国値をやや下回ってはいるものの高い割合で大切であると答えている。
- ・「算数の問題の解き方がわからないときはあきらめずにいろいろな方法を考えますか。」の項目では、全国値は少し下回っているが、あきらめないで努力している割合は低くない。

【学習環境・生活環境について】

- ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と思っている割合は、全国値同等に高い割合を示している。
- ・「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目では、全国値同等に高い割合を示している。
- ・「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがあるか」の項目では、全国値よりは少し低いものの高い割合を示している。
- ・「将来の夢や目標をもっていますか」「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」などの項目では全国値よりは少し低いものの、高い割合を示している。
- ・「自分の考えや意見を発表することは得意ですか」の項目は全国値を下回っているが、「友達の話や意見を最後まで聞くことができますか」の項目では、全国値と同等に高い割合を示している。
- ・「自分にはよいところがあると思いますか」の項目では、全国値を大きく下回っている。
- ・「テレビ、ビデオ・DVDを見る時間」の数値は全国値より高くなっている。

3 今後の取り組み

本校では、学力の向上を重点的な課題と捉えて取り組みを進めてまいりました。今年度は努力目標を「わかってうれしい!」「つながってうれしい!」～学習集団を育てる物語の授業の工夫～と設定し、授業改善に取り組んでいます。子どもたちが主体的に学ぶ授業作りや、指導方法の工夫改善のため、今後も、授業研究を充実させていきます。ペアやグループでの交流を行ったりして、言語活動を充実させ、自分の意見を表現できる力を育てていきます。

以前よりの大きな課題として、無回答率の高さが上げられます。特に問題文の長い問題では、正答率が低く、無回答率も高くなっています。根気よく問題に取り組ませるために、引き続き教材等の工夫をするとともに、がんばった取り組みに対して努力したことをほめて成功体験を積み重ねていき、「やればできる」という意識をつけていきます。自己肯定感を高めるとともに、このような自己有用感を育むことが、将来子どもたちに何か問題が起こったときに、あきらめず解決していく力となりますので、地道に取り組んでまいります。

算数科においては、少人数指導を3年生から6年生で実施し、個に応じたきめ細かな指導の充実を図っているところです。また、例年行っている算数診断テストも、年二回全校児童(1年生は一回)に実施し、子どもたち一人ひとりの習得状況の実態把握を行っています。結果を分析し、傾向と対策を練り、学力の定着を目指していきます。

また、自主的に学習に取り組む機会を設け、学び直しを行い、学力の向上を目指すとともに、成功体験を積み重ねることで自己肯定感を高め、学習への意欲を向上させることをねらいチャレンジタイムに取り組んでいます。

放課後の補充の時間や金曜日の東っ子スタディでは、学習が十分に定着するように、個々の進度に応じ学び直すことができるようにしています。

生活習慣や学習環境の結果を見ると、自分や友だちの良さを実感したり、自分の意見を進んで発表・発言したりすることに課題が見られました。

今年度も全校で引き続き、話し合いや意見交流の活動を多く設け、適切にコミュニケーションをとることができる力を育み、自己肯定感を高めていけるようにしてまいります。

学習習慣を身につけ、学習内容を定着させるには、ご家庭の協力が必要です。昨年度から、第五中学校ブロックの各校で家庭学習強化週間に取り組み、自分で家庭学習をふりかえる機会を設定しました。『宿題をする』『テレビやゲームの時間を減らして読書や勉強をする』『明日の準備をする』など、自分から進んで計画的に学習できるようにご家庭でもお声かけや見守りをよろしくお願いします。

これからも、学校や友だちの話をする機会を多く持っていただき、ご家庭と学校とが連携し合って、子どもたちの成長を支えていきたいと思っております。